

診療科・部門案内

脳卒中
センター
stroke care unit
(SCU)

平成19年4月より、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、救急科が協力して脳卒中センターを開設し、急性期脳卒中に24時間365日対応しています。

対象は主として脳卒中ですが、発症当初は脳卒中か他の疾患か区別がつかないこともあるので、他の頭部疾患も受け入れています。

●対象疾患

脳神経外科関係では…

- ◆脳内出血（既往に高血圧症があり、急に半身麻痺、言語障害などが起こり、意識障害に至ることもある）
- ◆くも膜下出血（突然、激しい頭痛、嘔吐で発症する疾患で意識障害を起こす場合もある）
- ◆脳腫瘍・慢性硬膜下血腫（高齢の方で数日間かけて運動障害などが進行する。過去2～3ヶ月以内に頭部打撲の既往があることが多い）

また脳卒中ではありませんが、頭部外傷なども対象としています。

これらの場合は、通常の診察時間帯以外でも、特に急を要する患者さんに限り診察ならびに治療を行います。

なお急を要しない患者さんは通常の診察時間（月、水、木の9時～11時）に脳神経外科を受診していただきますようお願いいたします。

神経内科領域では…

脳梗塞、てんかん発作、髄膜炎、脳炎など急性期治療が必要な患者さんを受け入れています。それ以外の神経内科疾患、特に急を要しない患者さんは通常の診察時間（平日9時～11時）に神経内科で診察させていただきます。



毎朝行われる
カンファレンス風景



なるほど
納得！
豆知識

t-PA 治療（静脈内血栓溶解療法）とは

脳梗塞の多くは血栓が脳の血管に詰まり脳細胞が壊死状態となります。そこで血栓を溶かし、血流を回復させる治療が行われます。t-PAは平成17年10月に保険適用が認められた血栓を溶かす薬のことです。

t-PAの治療効果は高く、発症後3時間以内の使用で、後遺症の程度を大幅に軽減することが可能です。しかし、全身に作用するため、他に出血しやすい場所があると、血管が血流の圧力に耐えきれず、破れて出血することがあります。そのため、t-PAの使用に際しては、十分な検討を行い使用基準を満たす患者さんにのみ用いられています。

脳梗塞から3ヶ月後

回復率

t-PA 投与 39%

後遺症なし
後遺症ごく軽微

t-PA 非投与 26%



t-PA治療は、発症から投与までの時間が短ければ短いほど有効性が高まります。

米国臨床試験 1995年（平成7年）実施データ